



ふなはし

議会だより

No.24/12月議会号
平成31年1月31日発行



舟橋村消防団が新年最初に行う演習である「消防出初式」。

今年1年の無火災を祈るとともに、火災が発生した際には迅速で的確な消火を行うため、消防団は日々の訓練や啓発活動を行っている。

災害や水害等が起こらないことを切に願います。



1月6日 消防出初式

- 特集 2
- 一般質問 3～7
- 議会活動レポート 8～9
- 常任委員会報告 10～11
- 議員提出議案賛成・反対討論 12～13
- あとがき 14

特集

第5回

～住民の声 舟橋寿会の皆さんに聞く～

今回は「友愛」「健康」「奉仕」の精神をもとに村の子育て支援、子どもたちの見守り事業に尽力いただいている舟橋寿会の皆さんにお話を伺いました。

・活動を始めたきっかけ

舟橋寿会：老人クラブの歴史から話しますと、昭和58年4月1日に発足しました。当初は2百数十名だったのでしょうか？そして、一昨年に発足50周年を迎えました。その時に、記念の植樹も行わせていただき、現在に至っております。

・これまでの活動を振り返って

舟橋寿会：改めて振り返ると、良かったことも悪かったこともたくさんありますが、新たに始めたこともあります。去年の4月から、青空ハウスと名付けて“よらんまいけ”というのを始めました。ここでは、世間話をしたり、悩みを聞いてあげたりとか、親睦会として活動しております。青空ハウス“よらんまいけ”では、みんなで脳トレや歌を歌ったりしています。また、みんなで手品を習ったり、ビンゴゲームなどで楽しく過ごしています。

少しずつですけど、人数も増えてきていますね。最初は4人くらいで始めましたが、普段は10人前後で活動して、多い時は15人くらいで活動を行っています。



・地域の奉仕活動

舟橋寿会：毎週金曜日に班を決めて、交差点など街頭で子供たちの安全見守り活動を行っています。また、子供のみ守りだけでなく一人暮らしのお年寄りの訪問支援活動も行っています。

・今後の活動計画や目標、取り組んでみたいこと

舟橋寿会：60歳以上の方に、是非入会していただきたく思います。今後は、新会員の増加や少子高齢化の進行などに応じて、これまでの活動を見直して、活動内容の更なる充実を図っていきたいと考えています。



・議会に対して望むこと

舟橋寿会：老人クラブの事務局長はボランティアです。そこで、手当を役場で補助してくれるような方策はないでしょうか？
また、立山町や上市町など他町村の老人クラブには、専門的な業務を行う事務員がいて、社会福祉協議会と連携して日々の業務にあたっています。しかし舟橋村にはそういった事務員がおらず、議会の皆さんにも協力をお願いします。

どうなる…。舟橋村!!



竹島 貴行
議員

問 職員の採用条件について問う
答 公平な採用を実施している

問 メディアは省庁、自治体の不適切な障害者雇用増し問題を取上げ、世相を賑わしているが、国会でも与野党が、この問題の攻防を繰り返している。

舟橋村では全体の職員数が少なく法定雇用義務から外れる結果となっており、村の採用職員には障害者は居ないと認識している。障害者雇用促進法の趣旨は、社会的弱者である障害者を公的機関が雇用

6名、保健師1名、保育士1名、教育関係職員14名が勤務しており、週20時間未満勤務の臨時職員は9名である。

舟橋村は全体の職員数が少なく、法定雇用率をカウントしても障害者の雇用義務から外れるが、正規職員の中には障害者手帳の交付を受けている職員もいる。

本村の職員採用条件は、一般職であれば年齢要件や学校教育法に基づく4年制大学卒業程度の学力を有する者、専門職であれば専門資格を有する者としており、障害のある方、ない方を分け隔てなく、公平に判断して職員の採用を行なっている。雇用の場におきましても障害を持った方が働きやすい環境に整えていく。

問 保育 子育て支援について問う
答 保育環境の向上に努める

問 村長は、これまで舟橋村でならもう1人子どもを産みたいと思える環境づくりに邁進していきたいと表明された。最近、舟橋地区に30軒の団地開発と古海老江でも10軒程度の団地開発が為され、その他に各所で若い世代の住宅が建築され、舟橋村は子育て環境が良いという噂が口コミで広がっていることを考え併せると、若い世代の転入促進が進み総合戦略の5年間で40世帯の子育て世代の転入促進目標は早い段階で達成されると考える。

しかし、ここにきて認定こども園への入園ニーズが加速度的に増えており、そこには幼い子供達を認定こども園へ受入れ

てもらえるというイメージが定着し、そのイメージを信じて家を新築した人もいろいろに聞く。これからも評判を信じ転入してくる若い人達が続くのではと思われるが、今の民営化された認定こども園では、保育士不足から受入れに四苦八苦しているようである。この点、村としてどの様に対応していくのかを問う。

答 村長 保育・子育て支援にかかわる施策は、平成27年10月に策定した総合戦略に基づき遂行している。

具体的なお取り組みとしては、「認定こども園における地域人材発掘育成事業」、「京坪川河川公園におけるパークマネジメント」、「子育て優良賃貸住宅整備事業」そして「ICT

を活用したコミュニティづくり事業」を実施した。

この取り組みが、評価を受けて昨年度末から徐々に子育て世代の転入が増えはじめるとともに民間事業者による宅地開発に繋がってきたと考えている。

しかし、急激な人口増は、認定こども園や水道施設等の現有施設のキャパシティの問題や人口構成。更には地域コミュニティ等の新たな問題を生むことになる。

なる。

中でも、こども園の受入れに関しては、年度途中での保育士の確保が大変難しい状況にあることから十分に対応を検討していく。

現時点では、国の定める保育士配置基準を満たしているが、余裕ある状態ではないと伺っているので、緊急時の対応にあたっては、村としても人的サポートの実施を検討している。



宅地開発が進む舟橋地内



杉田雅史
議員



問 認定子ども園の入所状況と待機児童の見込みについて 答 ユースセンター（旧保育所）の一部活用を検討する

問 村の人口について

は順調に増加していると思われ、今年度の舟橋地区の住宅団地の造成により約30世帯の増加、来年度には子育て支援賃貸住宅が完成することにより20世帯の増加、加えて竹内地区の住宅団地の造成計画により56世帯の増加が見込まれている。

ここ数年で100世帯以上の増加が見込まれているが、これだけ住宅が増加することにより子育て共助のまちづくりを重点事業として行ってきたいる当村

として次の数値等の説明を求めるとともに、

待機児童等が発生しないような対策を講じていく必要があると考えているが説明を求める。

①現時点における認定子ども園の年齢別入所状況と職員数から導かれる入所可能数は何人か。

②本年10月における当村での出生者数は8名と聞かすが今後の想定出生者数は計算されているか。

③認定こども園は現状及び今後の人口増加により待機児童の発生が

想定されることはないのか。

④認定こども園を卒業した後の小学校及び中学校の学年別生徒・児童数の推移見込み等により今後発生すると考えられる問題点と対応策について。

答 生活環境課長

本村の人口は、一昨年から民間事業者による宅地開発により、今年4月1日で3,064人、11月時点では3,119人となり、本村人口ビジョンに掲げる平成32年度の人口目標を約1年半前倒しする形で達成した。

現在分譲中の未入居の23区画に加え、来年度に分譲を予定している区画が完了した場合は、本村の人口が290人余の増加となり、3,400人台を超えることが予測される。

ここ数年来の本村における開発地の傾向から、諸条件に基づき児童数を推計すると、現

在の開発計画が完了後には約75人の入園が見込まれる。

ここ数年の出生者数は、平成28年度21人、29年度27人、本年度の見込数は24人となっており、合計特殊出生率は低い傾向にあるが、来年度に全ての開発地に入居があり、予測通り75人の未就学児童が入園を希望された場合は、35人の待機児童が生まれる可能性があるため、現在のユースセンター（旧保育園）の一部を使用することで、検討を進めている。



園庭で遊ぶ子どもたち



前原英石
議員



問

舟橋村総合戦略 舟橋村人口ビジョンについて

答 循環型地域社会の構築を目指す

問 「舟橋村総合戦略」

が策定され4年余り経過したが、進捗状況と、これまでの成果について

われてきていると思うが、上位計画の「第4次舟橋村総合計画」とは整合性が取れているのか？

る。また残された期間で行わなければならない事業についての説明を求めると共に、立ち遅れのあった事業は残された計画期間中に完了するのか？5年経過後も引き続き予算計上を行わなければならない事業はあるのか？

次に「舟橋村総合戦略」は、優先的に取り組むべき効果の高い施策の選択と集中で行

人口ビジョンについて、目標人口が2060年3,155人で、人口がピークに達するのが2045年3,267人となっている。人口ビジョン策定から、わずか4年余りで大きな誤差が生じているが、策定に甘さがあったのではない

か？当初目標と大きなズレが起こっており、将来の人口推移、

構成比など修正しなければならぬが、どのように考えているのか？次に認定こども園の受け入れ定数は145人で現在122人と聞いている。学童保育については受け入れ定数は何人で、現在何人が利用していて、今後の増加についてはどのように試算をしているのか？安心して受け入れられる環境は整っているのか？

答 生活環境課長 本村

総合戦略の進捗状況については、事業開始から3年7ヶ月が経過し、その進捗状況は、子育て支援センターや京坪川河川公園における取り組みが、本村への「愛着」と「期待感」の醸成に繋がり、転入という成果が現れた。また、京坪川河川公園で実施しているパークマネジメントが、*CSV

ビジネスとしての評価を受け、第34回都市公園等コンクールにおいて最高賞の国土交通大

臣賞を受賞するなど、少しずつではあるが成果を生み出している。次に民間開発による人口増加に伴う受け入れ態勢については、既存の分譲地並びに来年度に分譲等が開始されて、全てに入居された場合は、99世帯297人の人口増が見込まれ、1178世帯、人口3,400人台を超えることが予測される。ここ数年來の本村における開発地での入居者家族構成の状況から試算すると、75人のこども園への入園が見込まれる。

このことから本村ではこども園の運営主体富山YMCAとユースセンター(旧保育園)の一部を使用することで、待機児童が出ないよう検討を進めてまいりたい。

*企業が社会課題等に主体的に取り組み価値を創造すること。



田村 馨
議員



問

高齢者の運転免許自主返納者支援について

答 全国の先進事例等を調査し高齢者支援づくりに努める

問 高齢者の運転免許証自主返納者支援について、6月定例会に引き続いて問う。

現在村が実施している高齢者運転免許自主返納者生活支援事業は、免許返納から5年間の限定のサービスであり、永続的な支援が受けられない。また社会福祉協議会が村の委託事業の一環として実施している外出支援サービスについても、利用できる範囲が村内に限られ、日常の買い物や医療機関への通院といった、村民、とり

わけて運転免許を返納した高齢者の利用ニーズを十分に満たしてはいない。

免許返納してから5年間限定の生活支援事業が終了した後の対策について、どのように考えているのか。

そこでオンデマンド交通システム「コンビニクル」を紹介したが、答弁では、オンデマンド交通を含めた対策を検討し、またコンビニクルを運営する業者とコンタクトを取り、無料で実施できるシミュレーションを行うと

あったが、その進捗状況について問う。

答 生活環境課長 高齢者の運転免許証自主返納については、平成22年7月から、「高齢者運転免許自主返納者生活支援事業」を実施している。

舟橋村社会福祉協議会においても平成26年4月より、「生活支援サービス」や「外出支援サービス」を実施している。

しかし、「高齢者運転免許自主返納者生活支援事業」や「外出支援サービス」だけでは、十分とは言えない。オ

ンデマンド交通についても検討したが、村内には総合病院や商業施設が存在しないため、近隣の立山町、上市町、滑川市、富山市の商業施設や総合病院を利用し、それぞれの施設も複数であることから、

多様な村民ニーズに対応する乗降場所が想定されるので、ルートを選定することは、極めて困難であるとの結論に至った。

今後本村においても確実に訪れる高齢化の対応に向け、社会福祉協議会は関係機関と連携を図り、全国の

先進事例の調査研究を着実に進め、高齢者支

援づくりに努めてまいりたい。

問 奨学金制度の拡充について 舟橋村奨学生選考委員会で対応を検討する

問 日本の高等教育は世界でも有数の「高学費」といわれている。

国公立大学の平均授業料は約82万円、私立大学では約131万円に上る。更に私立大学の薬学部では学費だけでも200万円を超える非常に高い学費がかかる。かつ、奨学金制度は不十分である。

50%を超える学生が「学生支援機構」などの奨学金を受け、少ない学生が、数百万円から1千万円を超える「借金」を背負って、社会に出てくる事態は、まさに「国のありよう」が問われる大問題である。

そこで、次の2点について問う。

・「舟橋村奨学金」の対象者を、「生保基準の1・2倍」など、「生活保護世帯と同程度の所得の世帯」まで拡大することは可能か。

・対象者の拡大を可能にするための「基金」を、さらに拡大する対策を検討できないか。

答 教育長 奨学金の給与の対象者は、条例、広報、校長会等で案内しておりその条件は、

1 村民であり、高等学校以上に在学していること

2 身体強健かつ品行方正であって学業成績が優秀であること

3 経済的な理由により就学が困難な者

4 在学した学校長または、在学する学校長の推薦がある者となっている。

これらの条件をすべて満たしている高校生には、月額10,000円、大学生には、月額30,000円を給与している。

対象者の拡大は、経済的な理由の条件であり、例として「生保基準の1・2倍」や「生活保護世帯と同程度の世帯」で、村の算出方

法はこれを満たしている。したがって「村の基準」を変えする必要はないと考える。

「基金を、さらに拡大する対策」については、現在「基金」は設置していない。給与を受ける条件を満たしている生徒及び学生が多数いる場合などは、舟橋村奨学生選考委員会で奨学金や人数などを含めて対応を検討する。

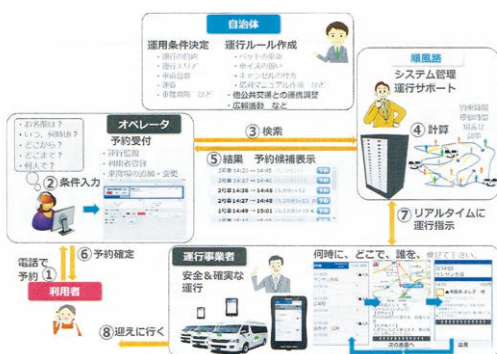


吉川 孝弘
議員

問 特産ポイント活用について 事業検証を行い対応を検討する

問 舟橋村の人口は1990年(日2)を転機として急速に増加し、11月1日の基本台帳に基

コンビニクルによる運行の仕組み



ジョンの2020年の目標値を達成した。

村では、「健康」を育むことを基本的な理念とし「日本一の健康な村」の実現を目指している。

日本一ちっちゃな舟橋村ならではの住民みんなが支え合う事として、健康イベント等の参入に新しい住民を取り込み、住民参画を促し、行政と一体となった協働によるまちづくりが必要である。行事やイベント等への参加の機会のきつかけ作りがあればもっと活性化するのはないか。

例えば、ポイント・システムのな事を導入する事により、健康イベント等の参加、健康長寿社会の構築に向けて健康づくりの推進、(ウォーキング、健康講座受講など)や福祉の推進などに参加してポイントを集めることによって、集団検診率の向上にもつながり、健康づくりに関心の低

い方へ効果的なアプローチを行い、村民の意識改革を図ることが出来る。

ポイントを集める楽しみが有ると、行事への参加も楽しく取り組んでもらえポイント制度が有るからと気軽に他の住民を誘いやすい利点がある。

しかし、ポイント制度に重点を置くのではなく、ポイントが貯まると村の特産物や村内で使えるサービス券などの特典と交換できるシステムのなものにすることによって、村の特産物を作る人に意欲が湧いて、地域活動の活性化、経済効果と村内の交流も進展してくるのではないか。

ポイントシステムの導入に多くの人が参入してもらおう事により、なり手不足問題への解消のきつかけにもなるのではないかと考える。

舟橋村の特産物とポイントをコラボさせる

事で、住民が共に支え合う共助、健康で幸せになる舟橋村循環型のポイント活用への推進について問う。

答生活環境課長 ポイントシステムにつきましては、本村の国民健康保険事業で、平成29年6月1日より取り組んでいる。

本事業は、特定健康診査の受診率向上及び継続的な受診の定着を目的とした健康ポイント制度で、40歳以上の国保加入者を対象に、特定健診や人間ドックの受診、職場健診の結果を提供することにより1ポイントを付与し、合計3ポイントで景品と交換できる制度である。

このポイント制度の導入にあたっては、平成28年度の村民の特定健診受診率が県内自治体で順位が低かったこと、国民健康保険事業の「保険者努力支援制度」では、個人へのインセンティブ提供の有

無が国の交付金の算定の関わるということから特定健診に絞って実施している。

この後、ポイント制度が健診受診率の向上や住民参画に有効であるか等の事業検証を行ない、効果が確認されれば、対象事業をウォーキングや健康講座など他の保健事業へ拡充することも検討してまいりたい。

また、ポイントと景品の交換につきましては、平成31年度からの開始となるため、景品の選定にあたっては、国保運営協議会において検討するが、住民



生活習慣病予防教室の様子

たかがビニールの円盤、 たかがギザギザの一本



”世界七不思議”の中に、「アナログレコード」は入っていない。
しかし、よく考えれば入っていないのが不思議なくらい、アナログレコードはつくづく不思議なシロモノだと今更ながら思う。
アナログレコードの不思議は、とりも直さずあの一本のギザギザの溝にある。
音の周りに気配があるのではなく、気配の中に音があるのだ。
レコードはそして、当の演奏者、製作者、買った人が思っているよりは、実ははるかにシタタカ者であったと言える。音が吹き込まれた時に一緒に魂まで吹き込まれた場合に起こるのだが、レコードの溝が一枚役者が上で、これをかけるニンゲンの品定めをするのだ。
こうなると、レコードは不気味である。たかがビニールの円盤、たかがギザギザの一本の溝では済まされぬ「人格」のようなものが宿っているから、ますますたまらない。

お知らせ

質問者の写真下にあるQRコードをスマートフォン等で読みこむことで録画放送をご覧になることができるようになります。

ニーズを十分に把握する 利用できるサービス券等
とともに、本村の特 についても検討してま
産品の活用や村内で利 いりたい。

村議会活動レポート

11/1
(木)

さくらんぼくらぶ「ハロウィンイベント」

さくらんぼくらぶの「ハロウィンイベント」が行われ、77名の親子が参加しました。この日は議場にも飾りつけが行われ、普段と違う雰囲気の中で子どもたちは「トリックオアトリート」と言ってお菓子を貰いました。



議場もかわいく
飾り付け



「トリック オア トリート」 おかしをどうぞ。

11/15
(木)

町村議会議員・事務局職員研修会 舟橋村で開催

高度な知識と幅広い視野を身につけ、議会の活性化を図ることを目的に、富山県内の町村議会議員・事務局職員を対象にした研修が舟橋会館で開催。県内から71名が参加し研鑽を深めました。



下水道施設の中心部を視察



村職員から公園の概要について
説明を受けました

舟橋会館での講演・研修が終わった後、中新川広域行政事務組合の地下にある下水処理施設と国土交通大臣表彰を受賞した京坪川河川公園を視察。村内にある重要施設の中心部や子どもたちが集う公園の概要について、現場で研修を行ないました。

村議会活動レポート

11/21
(水)

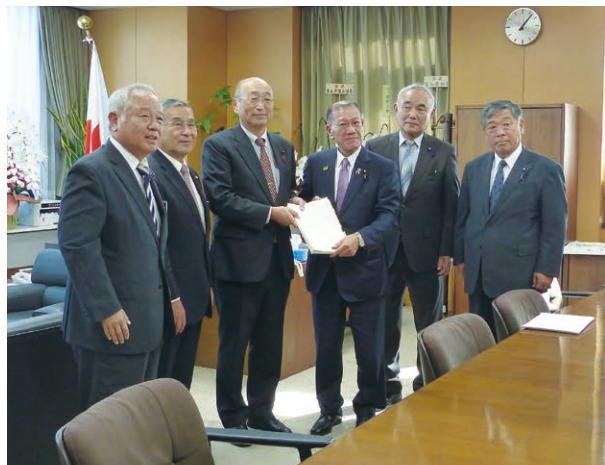
第62回町村議会議長全国大会

東京N H Kホールで第62回町村議会議長全国大会が開催され、議長が出席しました。

また、県選出国會議員への要望活動も行い、県内町村からの要望書を提出しました。



全国大会の様子



宮腰大臣へ要望書を提出

12/25
(火)

舟橋分遣所に大型ポンプ車配備

消防大型ポンプ車が舟橋分遣所に新たに配備されました。村関係者を集めた式典後には記念放水が行われ、村の安全と無火災が祈願されました。



新たな消防車の配備を祝う金森村長



役場前で行われた記念放水

1/13
(日)

舟橋村成人式

村の将来を担う成人者を祝う舟橋村成人式が舟橋会館で行われました。

式の終わりには、出席者37名が一人ずつ将来への抱負を力強く発表しました。



多くに関係者が出席し成人者を祝福しました



新成人の抱負を1人ずつ発表

人口増に対応するか？

質疑
応答



総務教育 常任委員会

これからの子育て環境は！

議論白熱！！

問 認定こども園前の駐車場利用に際し、職員から料金を徴収する理由と、近隣での状況は？（川崎）

答 認定こども園には、職員駐車場がなく、村が整備する駐車場を運営事業者の富山YMCAに有料で貸し付けるものであり、このようなケースは一般的である。

問 小学校給食室ガス給湯器修繕について、現在どのような状況なのか。急を要するものであれば専決で対応すべきでは？（前原）

答 給食に欠かせない設備であり既に修繕は実施した。当初予算に無い修繕であり、補正で予算計上した。

問 子育て優良賃貸住宅の入居予定が来年10月であるが、「村営住宅条例」もしくは「子育て支援住宅設置及び管理条例」制定などの進捗状況は？（田村）

答 舟橋村優良賃貸住宅の設置及び管理に関する条例及び条例施行規則の制定が必要となる。制定時期は来年の6月を予定している。

問 平成30年10月から翌31年3月までに、仮称モデルエリアマネジメント協議会を設立し、協議した結果を村に提案、議会と協議し条例化、平成31年3月か、6月に議会提案と聞くが、この進捗状況は？（田村）

答 第1回モデルエリアマネジメント協議会を12月6日に開催。来年3月までに施設の運営条件や入居者募集条件等を取りまとめる。

問 平成31年度の人口目標値3,119人が、約1年半前倒しで達成された。急激な人口増に関し、どう対応するのか。今後の宅地開発への対応についてもどのような方針なのか。（田村）

答 舟橋村人口ビジョンでは、将来的な人口構造を考慮し、5年間40世帯の子育て世代の転入を目標に定めている。今後の開発については、現有施設のキャパシティ等を念頭に本村の人口ビジョンと整合性を図りながら慎重かつ中長期の展望に立って進める。



本年10月に完成が見込まれる子育て優良賃貸住宅（竹内地内）

産業厚生 常任委員会



福祉・産業の環境整備に向けて！

議論白熱！！

問 老人福祉費の老人保護措置費について具体的措置内容及び扶助費110万円の根拠は？（竹島）

答 養護老人ホーム入所に対する措置費として、入所する3ヶ月分の基本額と特別加算額の合計額である。

問 健康づくり推進費の事業内容及び事業推進による成果は？（竹島）

答 がん検診や特定検診の啓発普及や生活習慣病予防教室並びに訪問指導等を実施してきた。結果として各種検診の受診率が向上したことや重症化予防等一定の成果を得たと考えている。

問 農業総務費の農業共同経営体支援事業のこれまでの成果と、農業共同経営体を支援することで、今後の農業をどのように立ち行かせようと考えているのか。（竹島）

答 これまでの農業支援制度は、設備投資に対するもので利用件数から考えても一定の成果を得たと考えている。今後は、現在策定して

いる本村農業ビジョンとの整合性を図りながら、現在ある補助制度も合わせて見直しをかけていく。

問 京坪川河川管理道防護柵設置事業について詳細説明を求める。（杉田）

答 消防屯所から京坪川河川公園までの区間に防護柵を設置し、安全対策を図る。また合わせて、消防屯所から小学校プールまでの側溝も整備する。

問 村道稲荷八幡川線消雪施設整備事業について詳細説明を求める。（杉田）

答 現在竹内地内の開発地において消雪設備の工事を予定している。本工事は消雪設備の対象エリアを村道稲荷八幡川線まで対応できる井戸設備に係る経費である。

問 国重地内村道新設事業について詳細説明を求める。（杉田）

答 国重地内に放課後デイサービスとグループホームの設置申請があり、取付道路を改良し、村道認定する。デイサービスセンター

光熱費の補正は、今冬を見通した補正なのか？（森）

答 今回の補正は今夏の猛暑により、電気料が予算額を上回ったものであり、冬期間については、例年を見込んでいく。

問 簡易水道総務費のASETマネジメント策定業務について事業の詳細説明を求める。（竹島）

答 現在村では、水道施設の更新計画や今後の財政収支の見通しを示した経営戦略を策定しているが、本戦略の精度向上のため、施設の更新時期の実耐用年数等を調査するASETマネジメントを実施する。

問 認定こども園の状況と待機児童について今後の見込みと対応について問う。（杉田）

答 現在予定している開発地に未就学児童が同時期に転入した場合は、現在のこども園の定数を上回る可能性はある。旧保育園を活用した小規模保育についての検討を進めている。



転落防止柵及び舗装工事が行われる京坪川河川管理道

議員提出議案 賛成・反対討論



提案者

森 弘秋議員

議会改革が全国的に議論される中、その範疇である議員定数の議論も例外ではない。

当議会においては、議会広報の発行、インターネット配信、常任委員会の傍聴等に取り組んできたが、現在進行形であり、より以上の改革を進めるために議員定数の削減を図るものであるが、この問題は、議員の質を高め、不断の研鑽によつて、少数の議員ながら対応が可能と考えるのが相当である。

また、民意を効果的に反映させるかは、議員自らの不断の努力、かつ議会報告会など、基本的に議会が重い決断をもつて身を切ること

が議会改革と考えられる。
地方自治法第91条第2

項2号で人口2千人以上5千人未満の町村は、14人を越えない範囲内と定めており、何名の議員構成で行うことが妥当なのかの定数までを定めていない。各町村の客観的な判断のもと、条例にゆだねられ制定されている。

こうしたことを鑑みれば、定数を削減しても十分に村民の負託に応えられることが可能ととらえ、例えば、審議が簡潔に効率的に運営できる。削減により、健全財政が図られ、行財政改革につながる。地方政治への関心の低さや不信感を払拭することが可能となる。などの理由により議員削減を提出するものである。



賛成討論

前原 英石議員

昨今、二元代表制の一翼を担う地方議会のあり方が問われている。議会の役割とは、行政に対するチェックや条例を設け改廃すること、そして最大の権限と責任は議決権の行使である。したがって、私達議員は、住民の声や自らの調査、研究から得た結論を村政に反映させる事に留まらず、より正確で適正な判断が下される為の審議方法にも着眼していかなければならない立場地位にある。

しかし現実問題として、舟橋村議会が何人の議員構成で議会を運営していく事が妥当なのかという客観的根拠については、現在全くないのが現実である。従つて現在の議員定数8名を保たなければ議会運営が成り立たない、村民の付託に応えられないと言う考えにも当然根拠がないと言う事になる。

舟橋村議会の議員定数は昭和46年4月に12名から現在の8名に4名の削減を行っている。今では前回削減を行った当時に比べ、村を取り巻く現況は大きく様変わりし、住民の価値観、ニーズも多様化してきているが、同時にそれに対応していくべく情報公開制度やインターネットの普及などで一般質問の質の向上や、議員が審議する上で欠かせない情報等が瞬時に得られるようになつてきている事などから、1名の削減を行つても余りあるものだと考える。

事実、以前に比べ一般質問者が増え内容についても核心に迫る内容のものが増えている事や、議論を行う上での質についても一段と深みが増している。

そのような現状の中においても、それに甘んじることなく、議会は住民からの理

解や信頼が得られるよう、一人一人が資質向上に努め、少数精鋭の目的集団となり、スピーディーで活力ある議会となるよう努力していかなければならない。

しかし一方では、村議会選挙はこれまで2期連続無投票となつており、議会に対する関心が薄れてきている事などから、議会としてもそのような現実に対して危機感を感じており、「議会日程の見直し」「インターネットによる議会中継」「委員会の活性化」「議会広報の発行」など住民に関心を持たれ、開かれた議会となるよう、活性化を進めてきている。同時にこれまでも議員定数についての議論も、改選前の時期だけではなく行われてきている。

更に、すでに議員定数削減を行った自治体から、議員数が削減されて、住民生

活に支障をきたした、協働のまちづくりが後退した、またチェック機能が働かなくなつてきた、財政状況が悪化してきた等の報告は聞いていないという事なども削減理由のつの理由である。

1名の議員削減は議員からしてみれば、狭き門となり、今まで以上に厳しい選挙戦となる事が予想される。しかしあえて、厳しい選択をする事が、今まで以上に村民や現場で働く職員と議員との信頼を築くきっかけになる事を確信します。それこそが議員定数削減の最大の効果であると申し上げ、本案に対しての賛成討論と致します。



反対討論

田村 馨議員

今回の条例改定は、現行8人の議員定数を1人削減し、7人とするものであります。次の4点の理由で反対いたします。

第1は、定数削減で住民の声を届きにくくするとともに、住民の政治参加を狭めることです。

村議会は、本来、住民の声をできる限り反映することが議会制民主主義の基本であります。また定数削減は、議員になる条件・門戸を狭めることにほかならず、政治を志そうとする方々にとって、立候補をしづらくし、住民の政治参加を制限するものです。

住民には多様な意見があり、地区からは様々な要望があり、地域の声をすみずみからくみ上げることが大事なことであります。これを村政に反映させるためにも、8人の議員は必要であります。

第2に定数削減は議会

の機能を低下させるものです。

議会は、一人一人の議員を通じて執行部に対し住民や地区の要望を伝える役割、地方自治体という団体の意思の決定を行う議決機関としての役割、執行部に対する監視機関としての役割があり、定数を削減すると、その機能を低下させることになります。議員は、住民を代表して審議決定するので、現在3千人を超える住民を代表するにあさわしい定数が必要です。

地方分権時代において議会に求められているのは、議員定数の削減ではなく、住民の多様なニーズや意思を正確に反映できる議員の数であり、議会・議員の本来の役割が発揮できるよう、質的向上をはかることです。

第3に、審議がきわめて非民主的です。

議員定数は、議会の構成



昭和46年以来となる議員定数改正条例が可決

にとつて極めて重要であるにもかかわらず、今12月定例会最終日の本日12月14日に、追加日程として突然議員提案され、たった2回の議会全員協議会での審議のみで本日の本会議で採決することは、議会制民主主義の破壊であり、強行採決と言わざるをえません。

第4に、定数削減ではなく、より村民に開かれた議会、活発な議論が保障される改革こそ、いま行うときではないでしょうか。

いま必要なのは、議会と議員活動の質を向上する議

会改革をさらに前に進めることです。舟橋村議会は、これまでも議会改革を積極的に行い、常任委員会などの傍聴、インターネットによる本会議の中継などを実現してきました。

今後さらに、議会、議員がつねに自己研鑽を行い、村民のために働く議会にするための議会改革が必要であつて、村民と村政のパイプを細くしてしまう定数削減は認められません。

以上を申し上げまして、今回の議員提案に対する反対討論といたします。

舟橋村議会の歩み

明治22年 舟橋村議会発足議員定数12名

昭和46年4月 条例改正により議員定数8名

昭和62年4月 女性議員誕生

平成19年4月 女性議員が議長就任

平成25年4月 「ふなはし議会だより」発行
(年4回)

平成27年9月 委員会中心主義の導入

平成29年3月 全員協議会の傍聴許可
委員会と全員協の傍聴体制の整備

平成29年3月 本会議場でアンケートの
配付開始

平成29年9月 議会映像配信開始

平成30年9月 議会傍聴PRポスター作成
(村内5箇所に掲示)

平成30年12月 条例改正により議員定数7名

ちよつと村の議会 行ってくるけ!

みなさんの
傍聴をお待ち
しております

12月定例会議案採決一覧

○賛成 ×反対 △保留・欠席

議 案	議 員							
	議長 川崎 和夫	前原 英石	竹島 貴行	明和善一郎	森 弘秋	吉川 孝弘	杉田 雅史	田村 馨
第35号 舟橋村の職員の給与に関する条例等の一部を改正する条例制定の件	—	○	○	○	○	○	○	○
第36号 認定こども園前駐車場条例制定の件	—	○	○	○	○	○	○	○
第37号 公益的法人等への舟橋村職員の派遣等に関する条例一部改正の件	—	○	○	○	○	○	○	○
第38号 舟橋村道路占用料条例一部改正の件	—	○	○	○	○	○	○	○
第39号 専決処分の承認を求める件	—	○	○	○	○	○	○	○
第40号 平成30年度舟橋村一般会計補正予算(第4号)	—	○	○	○	○	○	○	○
第41号 平成30年度舟橋村国民健康保険事業特別会計補正予算(第2号)	—	○	○	○	○	○	○	○
第42号 平成30年度舟橋村簡易水道事業特別会計補正予算(第4号)	—	○	○	○	○	○	○	○
第43号 平成30年度舟橋村後期高齢者医療事業特別会計補正予算(第1号)	—	○	○	○	○	○	○	○
第44号 舟橋村教育委員会委員任命の件	—	○	○	○	○	○	○	○
選挙第1号 常願寺川右岸水防組合議員選挙について	—	○	○	○	○	○	○	○
議員提出議案 第1号 舟橋村議会議員の定数に関する条例一部改正の件	—	○	○	○	○	○	○	×

あとがき

最近の有害鳥獣の中
で一番嫌われ者が
今年の干支のイノ
シシです。
作物を食い荒ら
し、水稲には体をこ
すり匂いを付け食
用にならなくする。
子供の時は「うりほ
う」と呼ばれ背中
の縦じま模様がかわ
い。



「猪突猛進」の言
葉のとおり、議会は
村民との懸け橋に
なるよう努めてま
います。

(明和・記)

議会広報特別委員会

委員長 吉川孝弘
副委員長 森弘秋
委員 明和善一郎
委員 田村馨

議会・議会だよりに
ついて、みなさまの
ご意見・ご感想を
お寄せください。



舟橋村議会事務局 Tel.464-1121(代) Fax.464-1066
〒930-0295 富山県中新川郡舟橋村佛生寺 55



議会中継は村のホームページ中央の「インターネット議会配信」
から見るができます。

ふなはし議会だより No.24